采覽異言附録

ル 2
2986

采覽異言附錄

全

2797

ル2
2986

門 ル2 2986 巻

一 いきりす国之内ろうまの者共ハ御座候名を
よりんまるて申者まるてと申ハ歳四十一ニ罷成
申候

異文ハ旦上ニ見

一 私儀ろうま切支丹宗門之師仕候由御座候
一 私国元母存命ニ罷有候兄弟も御座候私同門之
出家ニ而御座候妹も御座候文を認候私
書写之事ニ御座候
一 私儀ろうま切支丹宗門之出家にてほんと申
寺より参候者宣年… 付

門 八部1 2797 巻

日本江切支丹宗門之法を弘め為ニ渡海仕
度ニ付、此年ニ而日本詞等言習、三年
以前七月上旬ロウマを出申候、刻私
同門之出家、あまたありまたものと申者三人
是も懇意ニ而、唐北京ニ参り申候
船一同ニロウマ出船仕、かまいと申小船二艘ニ乗船
ありしやねいと申湊ニ着せ、夫よりかなりやと
申所ニ参り、夫よりふらんす国之大船
二艘ニ私並ニ同門之者三人、并ニ従者四人
修行宗門宗旨ニ参り候、同門之者一万人ハ

唐之内北京ニ参り申候、私ハ日本ニ志し
参り申候処、風悪しく嵐ニ逢、陸ニ
上り申候
一 船中水掃除仕候ニ付、右之津ニ而奥掃除仕、船ニ
乗り候処、橋船ニ而七八人、水ヲ汲ニ参り申候
処、風悪しく入船不申候、陸ニ而滞行申候ニ付
進付不申候
一 私儀、風悪しく候ニ付、揚り申候処、日本人家ニ連行申候
ニ付、即日本人四人ニ而、食事被下候、金子を出し
たとへ為價遣し、かの浦ニ而過越しを頼し申候

船ハ江戸ゟ遣候器物ニ候と申上候
言葉通し不申候

一 私共義ハ何れ之船を阿蘭陀人ニ参り本国ニ候段
申上候ニ御座候

一 私共并蛮人ハ日本之地ニ揚り申候ハ若私合
見知り候ハ同門之者并蛮人も日本之地ニ参り
不申候

一 阿蘭陀人ハ日本人ニ宗門之法仕置も
御請之儀ハ一切言葉通し不申候ニ付[illegible]入
不申候薩摩今長崎ニ参り候宗門之法[illegible]

仕り候由も申上候 詞通し申候

一 日本人之風俗能存候者共ハ風俗を
候得共是ハ宗門之者ニ而日本人ハ深く存不申
私共同門之者共ハ度々遠方ニ参り蛮人之風俗ニ替り申候

一 日本衣類并刀ハ呂宋ニ而求申候
掛申候但呂宋ニハ日本人居申候ニ付日本衣類ニ而
居申候由呂宋ニ而ハ日本人居申候如此之如く
候処ニ一不之者も居り申候

一 江戸ゟ参り候度々ニ申候江戸ゟ宗門ニ付申
度も無之候以後日本の地ニ而御尋ニ付申候

之内何之国ニても隣分漂弘メ申間敷と申付候

一 私領日本江渡海商売致候者又ハ本国ニ而返し令逗留候
又ハ日本ニおゐて宗門之法を犯し候ハヽ不届ニ而
子孫共可申付候日本ニ而商売致候又ハ相続ニ
可申候法ニ而宗門之法を犯し候者之とも申渡候。

一 日本ニて切支丹宗門御制禁之事は唐土成程国元ニ
拾とも兼而承知之儀ニ候存知者ニも私領と申様ニ触出し
承知之事とも申聞申付候段渡海仕
存之儀あらは通候趣申候何卒宗門之人とも
申相守以異人ニ寄而船共之通等候

由ニ申候和蘭陀和蘭右之
かぴたんへ阿蘭陀人ニ申聞る方申渡候

子十一月

通事目付

通詞

一 異国人持来時ニ大笑ノ所 諸道ニ一覧

一 四角なるびいどろ鏡の板なる物にて

異国人ニ相尋候処さんたまりやと申候

宗門ニ而本尊ニ申由

此絵ハ紙ニ書候物ニ而板ニ張有之候

竪一尺

横ハ八寸五分

但表ハ皆木ニ而

かねの金具打ニ而

ふちハ金さびの候

一 洞ニ而掛ル人形在之

異国人ニ相尋候処人形ハ恵ろきりそと申

宗門ニ而本尊ニ候 絵ハ其ニ而あきらと

申由也

此人形并二本

かねたくかくりかねて

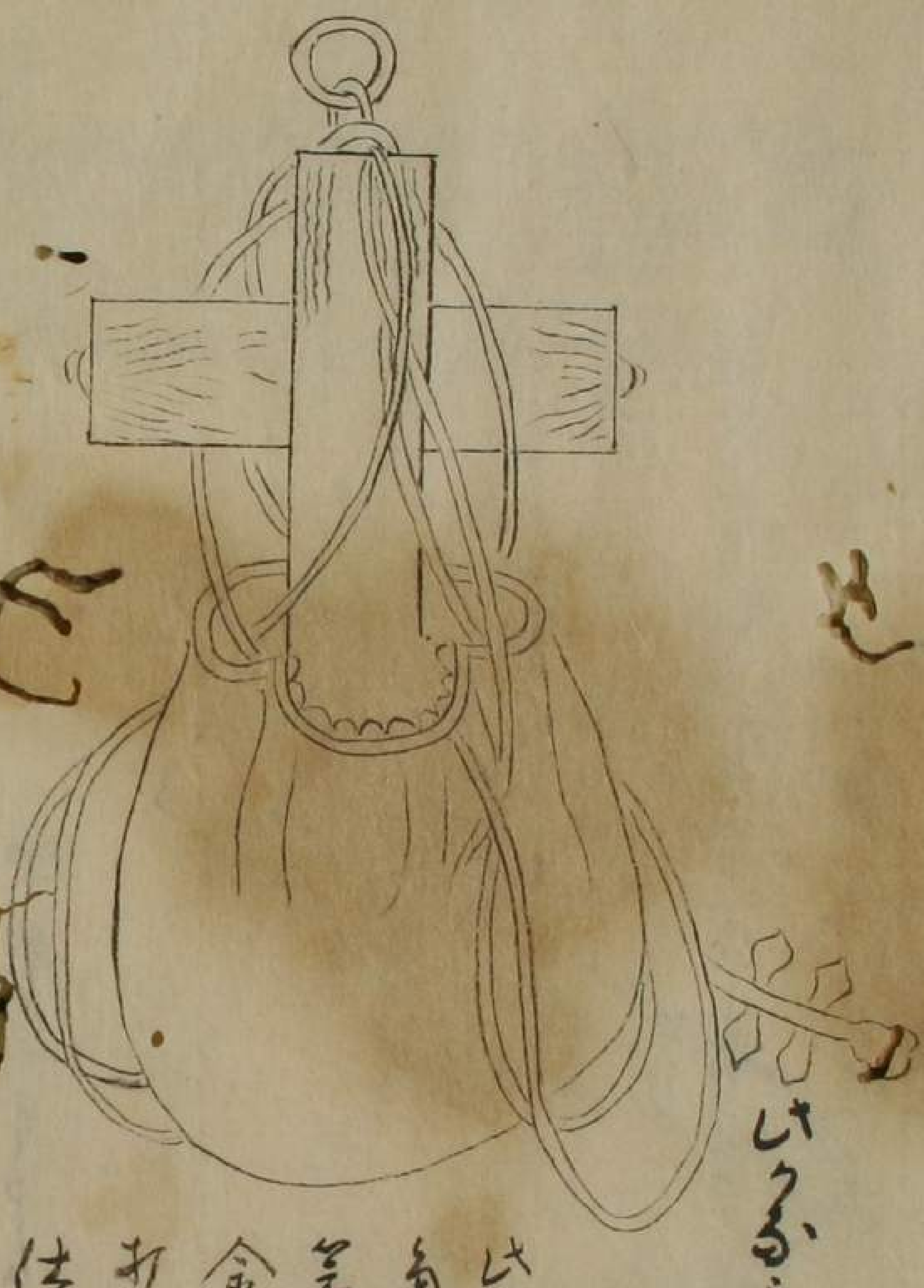
掛付置候

竪ハ古き金具ニ而

きれ申候

硝子ら挟ミ十文字地きま組ミ袋大ミ
たし紐ニ金物をつ付ル

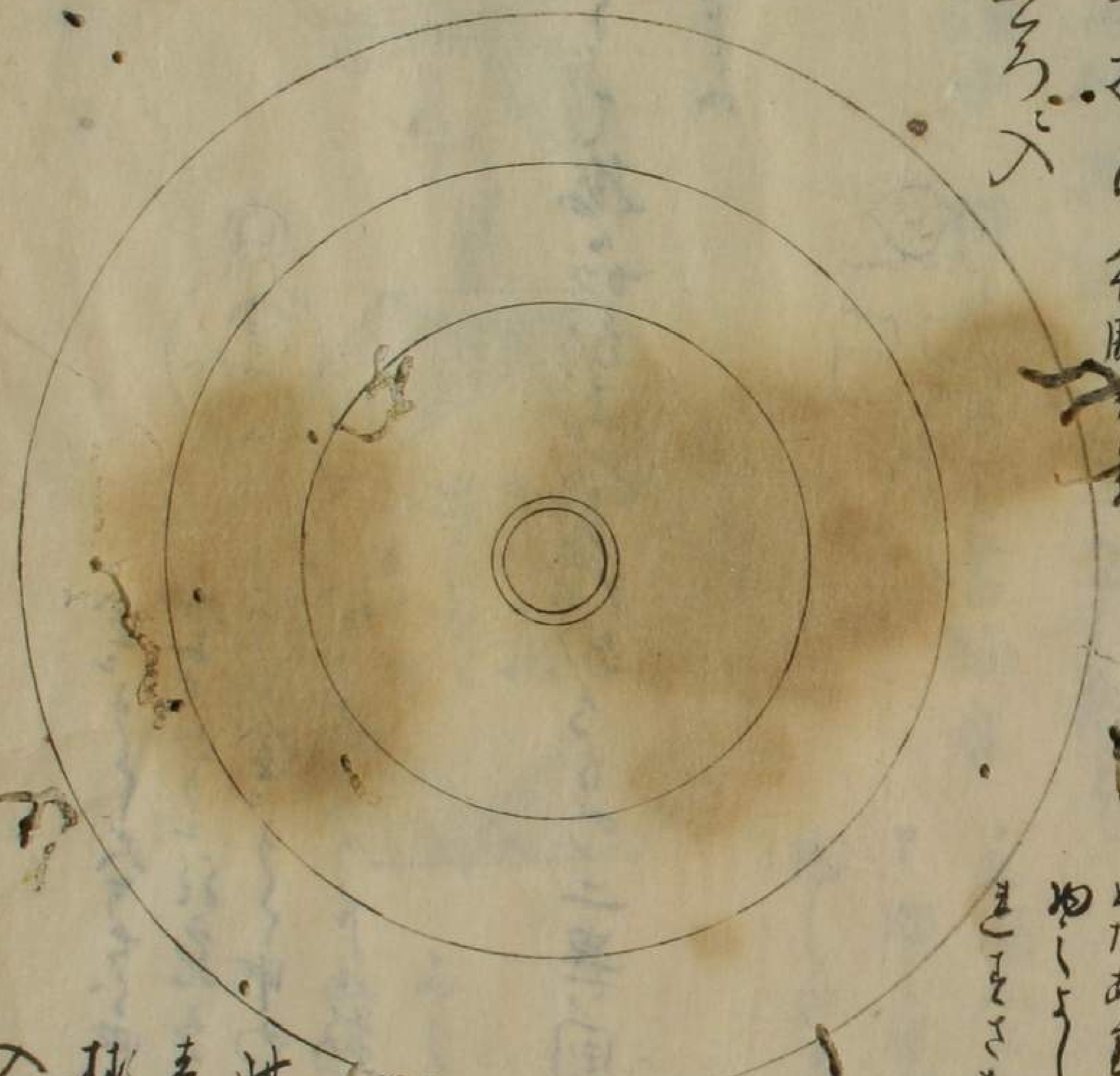
右国人ニおるゆ紙ゟ金ぎの包ろしきと色地
茶かるよのとぐろしめとしや地まうく
紗十文字宗つしをたる付らの大切成
しまりやらぬ



此ふくろよりきんちやくて挟付る

此十文字し地びいとうろうく
角ニらうしは此物仏し孫形
黄金縁ニおゝくやら
金のちうつねそて角ニ色く
おらんたニ細き紐付袋ぬ
仕付ニ成やらぬ

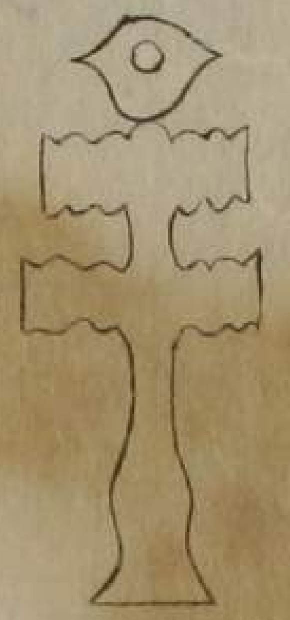
一 金の鏡の形ある地ニ細書紙華袋ぬ
一 金よく九く挟ニ而人形彫付ある
四拾二たしふくろニ入



此二色右国人ニおるゆ紙鏡のよふ呉こよふ
ま呉さあるもとも地安金ゐる九き地ハ
めたあるものとや地そて文大切ある
地しよし出る宗つ貴ゟ地ハ不同仕
まをさあるもとも中や

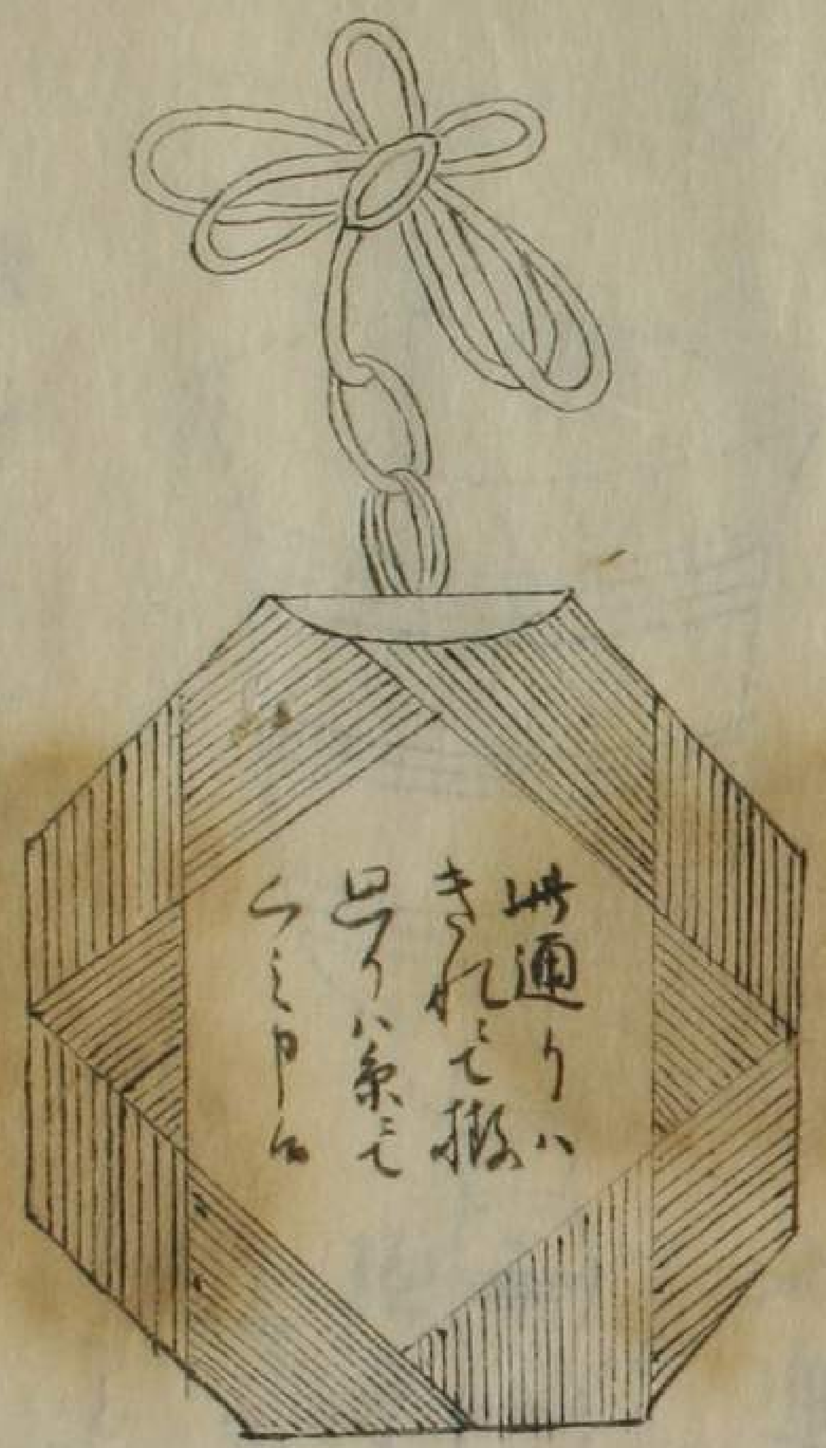
此大サ七寸四方
表金うし紐にて房
挟り物組表ニ華袋と
のふくしる

一　鎮ちりこて掛かなをいれかるもの二異国人ニおゐれハぐろすと申
物ニ無御座候



金ニ而大サちう四方程
裏ニ右ノ通りニ絵有之候
何も金ニ而中の絵ハ
かへてかゝり申候　数四十二

一　守袋の紐ニ掛細編ニ而掛申候
組中ニ横文字ニ書物有
異国人ニおゐ而ハ是ハまさあれと
申物ニ而其中ニ入候ハ大切ニ仕る
物ニ而御座候



右之前ニ　口ありん
品ハかなりくねる
かなり無御座候

一、銀ニ而猫口ニ成ニ掛足を付ケ候物也

異国人ニ而節延足をさしまさかれ候

ト宗門之器之由申候

外ハ銀ニ而掛内ハ金ニ而流し候ものと

おもへ申候

右ハ赤革之袋ニ入而金のくり板二把の盃

一、呂宋ゟ参り候金也

此通り金碇墨ニ而印之

ましいものおゝし此事ハ

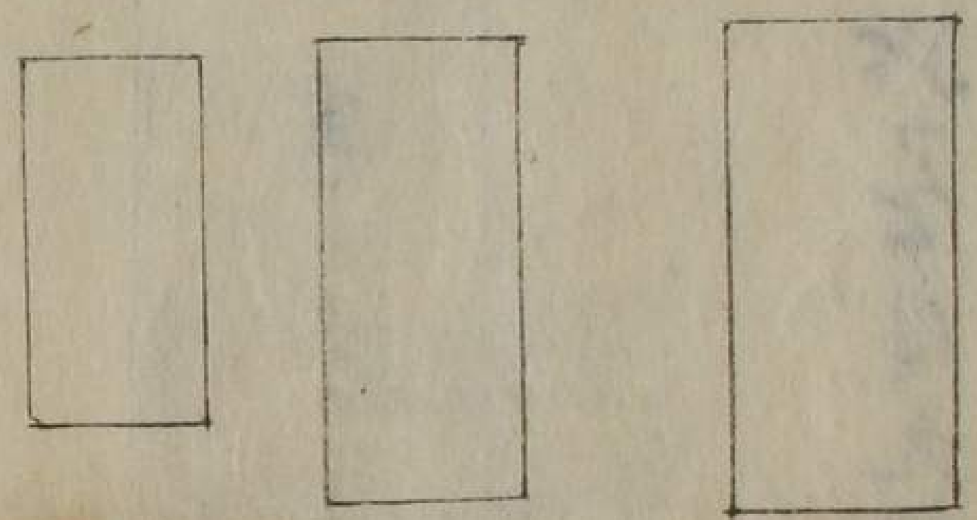
其く目ニ而文字有之

極印 二ツとも有之候も

能ニ見分かるへく候

此金目九拾八匁

一 同板金ニ相成る金　大小百八拾壱



掛目 三匁七分余

掛目 二匁余

掛目 壱匁余

此金大小合百八拾壱枚
掛目惣合三百八拾弐匁

一 同小キ丸金六拾粒
但粒大小有之丸薄ク相成候金掛目不同
有之二分三分四分位宛四匁壱百八拾ホド合惣掛目
五拾弐匁

一 日本小粒　拾□　但新金也

一 銭
一緡　但
寛永 日本　銭七拾六文
康凞 唐　銭三拾文

右四色取集メ紙袋ニ入有之候

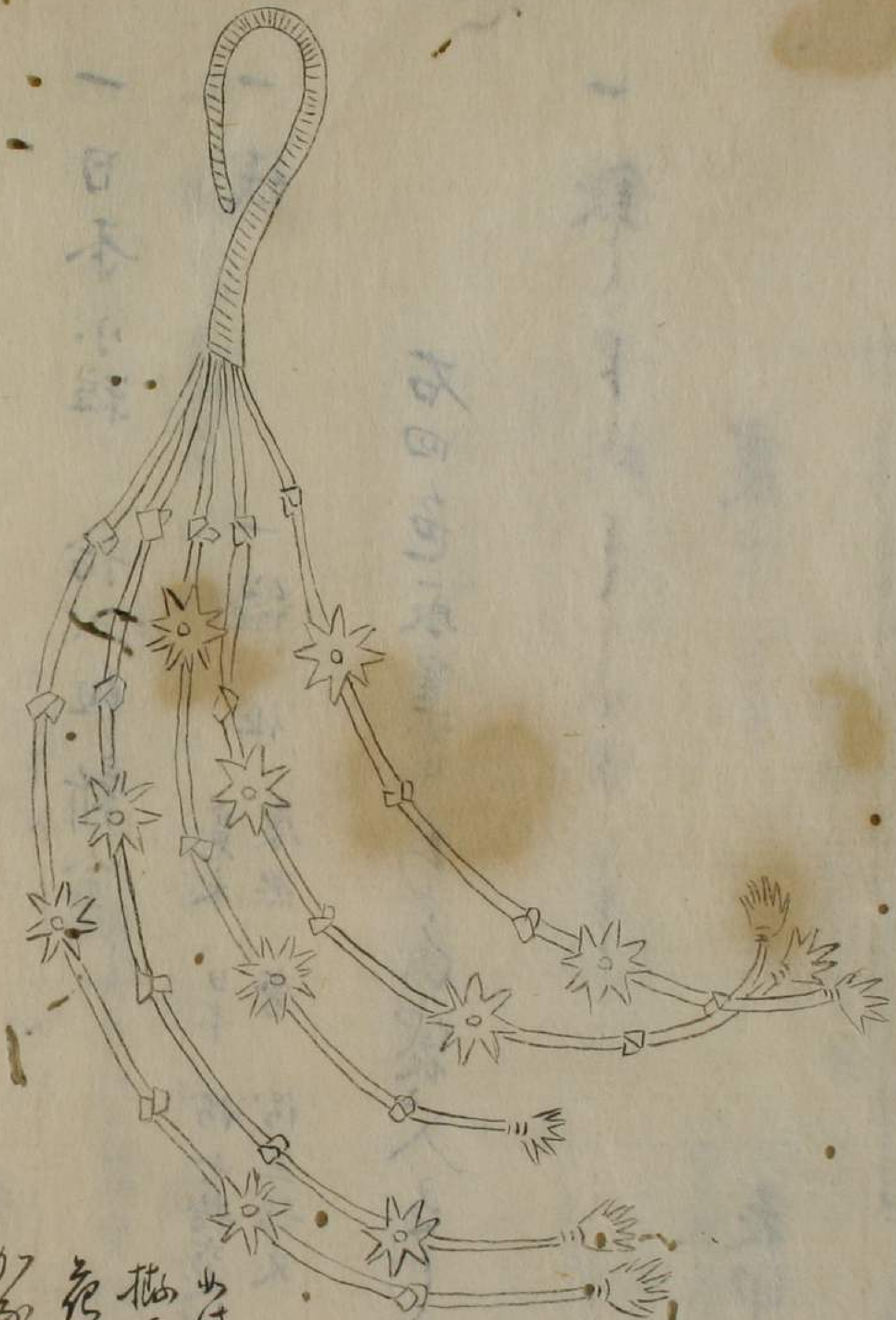
一 鉄ニ而十判壱

裏 十之方

表 印之方

一　苧縄ニ而拵金物を入置物ニ而

異国人おもむく処にて志ひりいのを申物
悪念起り候時ハ此縄ヲ以こらしめ申
痛申ニ仕申候



此苧縄ニて三尺程
拵ハし緒ヒ目ヨリ
先しよ金角立し
カタチ物ヲ入置

一　びいどろにて二寸四分程の丸き盾板ニ彩色し佛ヲ
描たる画を作り物　九ツ
異國人之ある処ニ志と見せまいらせくれ申物
しまし申候

一　仏のようなる画を金紙金入の袋ニ入置
異国人之ある処ニ志んたまりやろさなり申候
し申候

一　横文字之書物　大小　拾二冊　但草袋ニ帳あり
内六冊を異国人不断持来申候

一　同文字紙大小　五冊

一 横文字之反古　六十二枚
但此内ニろうま御恩用之方令書付候事切支丹
中ニくるす之段あり

一 宗門之仏之画大小　六十四枚

一 黒玉之珠数　壱連　但かさりあり

一 白布ニて拵候宗門之法衣　壱色

一 右同断　壱袋

一 袖なし羽織之様成ル異国衣物并帯共ニ一通り

一 ふらすこニ入候油　但壱ツ宛入小ふらすこ二ツニ入并
やに

此油異国人ニあたへ候処宗門之者大切成ル為呑申候
油之由申候

一 捻物之小香合　壱　但ふたあき候ハ内のねり薬少有

一 蒔絵之内香合　壱　但明きもの

一 同小香合　壱　但明きもの

一 挟　壱

一 湯之銭入　壱

一 鼻めかね　壱　但草之家入

一 日本流ニ拵候刀　一腰
但刃渡尺四寸七分樋アリ反八分中心ニ無銘焼キ無之

一 鐔しんちう二枚ちいさき
切羽かけしく二枚
柄さんちうれお鞘 但し 柄糸黒きよう糸にて菱
巻
目貫金燒付しれかる金模様雨龍のよふなる生
き物
縁柄頭赤銅雲しやうにて金にて燒付
揃赤銅二枚合さんちうのふくりんねぢよふ
一 あと座金のよふなる形金めつき燒付
鞘ハしんちうさんかつく鯉口小尻赤銅ふちにて

一 下緒さめん平組しよふなる物附申候
目釘燒付し金目釘
右之品々於役所阿蘭陀人并通詞異国人へ
相尋候処何れ之通ニ候哉不知旨申上

子十一月
外ニ別紙ニ入御覧

一 先達而申上候当八月廿九日松平薩摩守領分
大隅国屋久嶋之内恋泊村江異国人壱人着岸仕
こゝ御当地出府候長崎奉行永井讃岐守方去九月十一日
一 松平薩摩守方より長崎表江送越候ニ付

一去ル午年出羽遊行作佛之御影を八月廿九日新治村ニ
而て右之処ニ於て庵を結ひ木ヲ伐取仏像彫刻いたし
指出候処右之仏像ハ何レも見事ニ出来候由
中條家並ニ御奉行並ニ御役人衆何も参り被申候
程能方へ申聞候ハ役人衆ニ水を差上申候
後日ニ至り候処ニ右之趣を承り候
然る處に申候処右之人々鍛冶
兼而申付置候刀を請取り可申候
人々にて夜に入候へ共刀を請取候
五郎兵衛と申者人々江申聞村ニ参り

無之申者ニ而怪敷者ニ候間何れ之者哉
申候へ共来由村ニ而相尋候処申之
相成候事ニ候得共御家来ニ異国人
村方ニ而相尋候処刀を携
大勢ニ而相集り候ニ付異国人
手ヲ振り候て家並ニ参り候趣
三郎兵衛宅ニ相集候ニ付右之者
安兵衛と申者方ニ参り候て食を乞
異国人ニ而候由七ツ時分ニ罷出
一但シ衣類ハ黄色ニて袖細

長崎表ニ而異国人江差出候品々付返
し候由ニ付何角と異国人申候得共一寸言葉通し
申候ニ付役人ゟ段々大勢参り候由ニ御座候

一 去ル酉年御船参り候處右座ニ而申候ハ通り之様造之處
右近所ニ而異国人を見申候ニ参り其上[illegible]向ニ参り
役人ニも見届申候由ニ而段々被遣ニ付鍋仕
其文字之様子ニ参り候[illegible]書付参候
様ニ参り候由ニ御座候

一 去ル酉年御船参り候人ニ而被遣候所ニ而様子ニ相成候
申候ニ通り被遣候處右両人之荷物指出し
参り候様ニ被成候由ニ御座候

一 其後御参り候所右ハ何れ之異国文字ニ御座候ニ付通り
先達而之座ニ怪敷人共有之[illegible]
方ニ参り異国人ニ会候ニ付[illegible]
申ニ而異国人何れ之通人申候得共一寸言葉通し
申ニ付[illegible]相成候
申候事

一 当八月廿八日大隅国屋久嶋之内湯泊村之沖ニ而
異国船見申候ニ付河股国之漁人船[illegible]帰り
右実否承り[illegible]右之人

[illegible]之方ゟ参候ニ付異国之屋舗遥ニ見へ申候
廿一日ニ至り候而唐船追々船数相増候ニ付月番
為御検使渕村之沖ニ罷出候処凡三里程も
御座候沖之方ニ唐船之様ニ帆数多き船一艘
罷出候ニ付唐船之儀ニ而も無之候哉と御座候
度々船手之者共村之方ニ漕寄り積荷
異国人追々申出候御座候
候得共唐船ニ付為十艘之余ニ異船右様之船数
立出候所之度々注進致候此方之方ニ申出し
候ニ付漕出し候ハヽ申候船

押切り栗生村之方ニ罷帰り申候右様異船之方
之方ニ参候様ニ致候而乗組候由申候
事
一 右沖ニ而追々異国人[illegible]
相尋候処[illegible]
承り[illegible]
大[illegible]
之段申候事
一 [illegible]
[illegible]

[illegible]年中迄之通り異国人漂着[illegible]候
而ハ長崎江差遣シ湯洲沖ニ而異国船見
当り候ハヽ漢人船ニ而も清水ニ而も差寄
其ニ而も十分之物遣し候者有之候ハヽ追而
候処異国人申口之通り少々相違ニ付无端
給候ハヽ差ハ疑敷存候間ニ而御沙汰有之
時ハ猶又吟味之上急度可被仰付候
以来之心得ニも可相成候ニ付此段申上候

十一月廿六日

駒木根肥後守 印判
別所播磨守 印判

永井讃岐守殿
佐久間安藝守殿

文廟時正德中薩摩海濵有一男子鵠立乘里人見而異之衆共視之無有識者頭髮面貌衣服皆如我人衣綿布襖問之荅曰自異邦来又問何為而来曰欲宣天主教言語與我人無異里人大驚走而告里正轉告國官正召而問日本國禁天主教殊嚴汝不聞乎荅曰唯聞之是以特来耳我欲親見王而言之不可以告其下官正詳問其所從来則不荅唯言名豫灣天主教象拔帖連也官正以聞薩摩候薩摩候馳驛使以告東都相府相府以聞自縣官命薩摩送豫灣於東都至則下吏囚於[illegible]王牢豫灣在

官中坐倚終日不言不笑下視如瞠般僧坐禪日食
大饅頭數枚水糖二三両白湯二三碗不食他物官
命老奴夫婦無子者事之豫灣使奴婢溫顔和色視
之如傷奴婢歎服其德居數歲奴婢謂守吏曰我二
人者既受容教矣若隱而不告守吏以聞　縣官乃
吏因豫灣圈々數尺僅可容身食之以粥不復與饅
頭水糖豫灣泣曰倭人慘矣未幾瘦死
見紫芝園漫筆

采覽異言五卷白石源公所輯錄附錄
一卷者嶋原依章者所記也文化癸酉之夏
余書生寫諸東都官舍